

利尻島調査研究事業とは？

利尻島には多くの研究者が訪れ、様々な分野の調査に取り組んできました。しかし、その成果の多くは、島民が目にする事のない学会誌での発表がほとんどでした。その一方で、地元には標本や報告書を残したり、時には観察会なども開いていただく研究者の方々もいらっしゃいました。そんな時、地元に住みながら地元のことをよく知らなかったこと、利尻がこんなにも魅力的な島だということをお私たち島民は再認識することができました。そこで、このような研究者を積極的にサポートし、その成果を地元の財産として末永く伝えていこうと始まったのが、研究助成制度である利尻島調査研究事業です。本事業は北海道の市町村における研究助成制度の先駆けであり、これまでに約 200 本の応募の中から約 50 ほどのテーマが採用され、その成果は地元での普及活動のほか、利尻町立博物館年報「利尻研究」などに発表されています。



利尻島調査研究事業の歩み

- 1992 利尻町立博物館事業として「利尻島調査研究事業」開始。
第一号は金子之史氏によるムクゲネズミの調査。翌年まで採択数は1つで、助成金は 15 万円であった。
- 1994 採択数が3つに増加。
- 2004 採択数が2つに減少。
- 2005 助成額の減額が始まる。
- 2007 運営主体が利尻町立博物館から民間の有志へと変更され、再スタート。助成資金は島内外の有志からの出資によってまかなわれ、出資者による採択会議により採択などが決定されるようになる。
- 2015 記念行事として雪形ウォッチング招聘。
- 2017 出資メンバー 32 名+ 4 団体により運営。

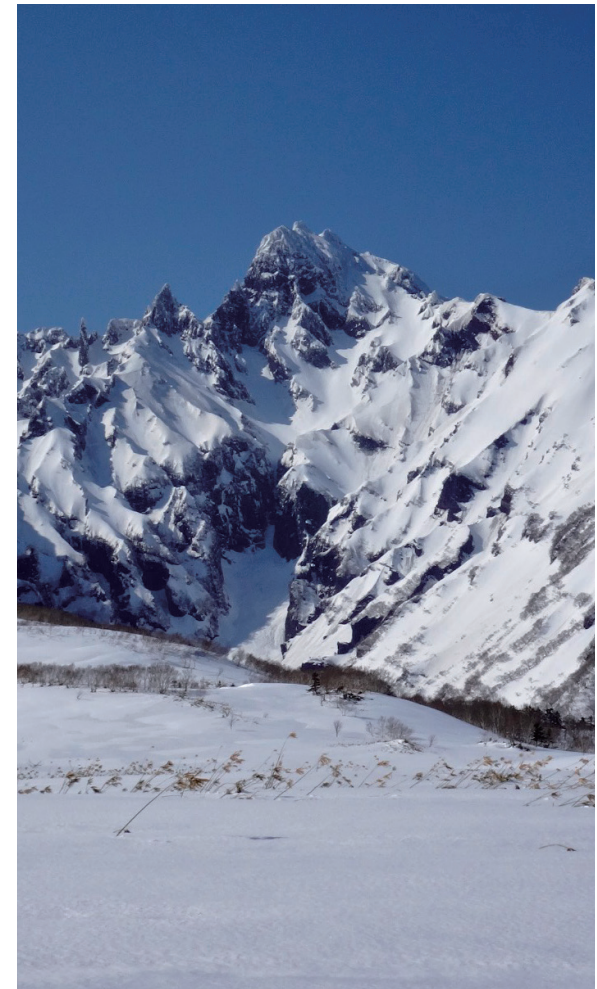
問い合わせ先

利尻島調査研究事業事務局

<http://riishiri.sakura.ne.jp/Sites/RRP/>

rrpii@mac.com

(2017.v.18)



出資者として研究をサポートする

1口5000円の出資金で、あなたも利尻島を訪れる研究者をサポートしてみませんか？利尻島調査研究事業では日本各地の大学・研究機関などから利尻島に関する様々な研究テーマを独自に募集し、出資者の話し合いにより採択者を決定します。採択者は年度内に利尻島にて調査や普及活動を行うことで、助成金を受け取ることができます。提供いただいた出資金はこれらの研究助成制度の資金として活用されます。出資者は本事業の運営にかかわるとともに、調査に同行して最新の利尻の情報を得ることができたり、講演会や観察会に無料で参加したりすることができます。また遠隔地の出資者の方にはインターネットを活用した情報サービスや映像などが提供されます。

採択者として研究をサポートしてもらう

「利尻島で調査をしてみたいけど、資金やきっかけが足りない」「地方によく調査に行くが、なかなかその成果を地元に戻元できない」という研究者のみならず、助成金は決して多くありませんが、そんな時は利尻島調査研究事業をぜひご利用してみたいはいかがでしょうか。

利尻島に関する研究テーマであればなんでもOK。申請に必要なことは利尻島調査にかかるあなたの熱い想いです。採択された場合は、助成金や来島調査時のサポートが受けられ、観察会や講演会などの普及活動の開催のほか、調査報告の提出をしていただくことになります。

これまでの採択テーマなど

リシリヤチネズミの形態・生態学的研究、利尻島新第三系の微化石層序と古環境解析、利尻岳特産のボタンキンバイの起源について、酸性雨に対する利尻島生態系の感受性評価に関する研究、利尻町民の長寿とライフスタイルの特徴についての調査研究、利尻火山の最終ステージの側噴火、リシリビャクシンの分子系統学的研究、利尻山豊仙沢雪渓の内部構造と氷化過程に関する雪氷学的研究、鳥取県民の利尻島移住に関する史的・民俗学的研究、利尻島に所在する湿原の現植生の解析と保護・保全状況の評価、生活習慣病予防を目的とした利尻島産海藻の調査研究、利尻島沿岸域における海底湧水の挙動とその沿岸環境での役割、リシリヒナゲシの種子発芽特性、 etc.

Rishiri Research Project

